

■サラ・ブライトマン(ソプラノ)／Sarah Brightman

「オペラ座の怪人」「キャッツ」など、アンドリュー・ロイド・ウェッバーによるミュージカルでオリジナルキャストの主演をつとめ、一躍トップスターとなる。世界的なヒット曲も多数。クラシックとポップスを華麗に融合させた「クラシカル・クロスオーバー」という新ジャンルでも女王の座を確立。美しい歌声だけでなく、アルバムやコンサートツアーのコンセプト、ヴィジュアル等も手がけるなど、高いセルフプロデュース能力も発揮。世界の人々を虜にする、最も成功したソプラノ歌手のひとりである。

■ユンディ・リ (ピアノ)／Yundi Li

古い歴史を持ち、5年に一回しか開催されない世界的に有名なショパン国際ピアノコンクールで、15年ぶりの、そして最年少の第1位優勝者となり、世界に大反響を巻き起こした。完成されたテクニクと、感性と若さにあふれた演奏で、聴くものを魅了。今年も「ブラハの春」をはじめ、パリ、ニューヨークでリサイタルを開催、8月には「ザルツブルク音楽祭」に招かれるなど、世界を舞台に活躍中。

■ジャン・シャオチン(古箏)／Jiang Jian-Chin

古箏の名手として、演奏活動だけでなく映画やコマーシャル、イベントの音楽にも積極的に取り組むなど、多才ぶりを発揮。特に映画「ラスト・エンペラー」のサウンド・トラックに参加、高い評価を得る。国内外で活躍。中国音楽以外のジャンルの演奏家との共演も多く、他に追従を許さない優れた技術・音楽性に加えて、真摯に古箏に向かう姿は心を打つ。

■黄檗宗の僧侶による梵唄／Bonbai

僧侶による声楽を総称して「声明(しょうみょう)」というが、黄檗宗では通常「梵唄(ぼんばい)」と呼ぶ。多種の鳴り物が打ち出す4拍子系のリズムに合わせて唱えられる抑揚豊かな旋律と、中国的な雰囲気醸し出す「唐音(とういん)」とよばれる発音が、黄檗宗の梵唄の特色のひとつである。

「JAL音舞台」の歴史

過去13回の開催日、場所、主な出演アーティストは以下の通りです。

	開催日	開催場所	主な出演アーティスト
第1回	1989年 9月29日	金閣寺	鮫島 有美子(ソプラノ) 圓城 三花(フルート) マリア・バックマン(バイオリン) 他
第2回	1990年 5月12日	泉涌寺	パオロ・バルバチーニ(テノール) 西村 由紀江(ピアノ)、伊藤 多喜雄(民謡) 中村 児太郎・橋之助(歌舞伎) 他
第3回	1990年 9月29日	三千院	イゴル・アルダシェフ(ピアノ)、小倉 直子(ピアノ) ピエール・ピエルノ(オーボエ) 松本 美和子(ソプラノ) 他
第4回	1991年 9月20・21日	清水寺	ニューヨーク・シティ・バレエ 坂田 美子(薩摩琵琶) ギィトウブランフランス金管五重奏団 他
第5回	1992年 9月26日	平等院	スタニスラフ・ブーニン(ピアノ) 中丸 三千繪(ソプラノ) 他
第6回	1993年 9月 5日	東寺	佐藤 しのぶ(ソプラノ) 林 英哲(和太鼓) ダンス・シアター・オブ・ハーレム(バレエ) 他
第7回	1994年 9月10日	泉涌寺	富田 勲(シンセサイザー)、熊本 マリ(ピアノ) 五十嵐 麻利江(ソプラノ) クシャクタ(フォルクローレ)他
第8回	1995年 9月 9日	東寺	ヤニー(シンセサイザー) 錦織 健(テノール) 他
第9回	1996年 9月 7日	延暦寺	キリ・テ・カナワ(ソプラノ) 長澤 真澄(ハープ) 他
第10回	1997年 9月 6日	金閣寺	井上 道義(音楽監督)、野村 萬斎(狂言師) 東儀 秀樹(雅楽師) NYフィル選抜メンバー 他
第11回	1998年 9月 5日	醍醐寺	久石 譲(音楽監督) ディープ・フォレスト(ワールドポップス) バラネスク・カルテット(弦楽四重奏) 他
第12回	1999年 9月 4日	大覚寺	斉藤 恒芳(音楽監督) マルセル・マルソー(パントマイム) ベレン・マジヤ(フラメンコ舞踏手) シークレットガーデン(ワールドポップス) 他
第13回	2000年 9月 9日	清水寺	姫神(シンセサイザー) エヴィア(エレクトロニック・バグパイプ) クリスティーナ・レイコ・クーパー(チェロ) ローラ・フラウチ(ヴァイオリン) 他

第14回	2001年 9月 15日	二条城	服部克久(音楽監督) イジー(ソプラノ) チェン・ミン(二胡) 藤舎名生(横笛) 他
第15回	2002年 7月 14日	法隆寺	東儀秀樹(音楽監督/雅楽師) ホセ・カレーラス(テノール歌手) アジナイホール(馬頭琴) 他